



“阪神・淡路25年”をどう伝える？ 世代を越えて熱い討論 なまず合宿2019

関西なまずの会では「第34回勉強会・夏季合宿2019」を8月17日・18日に京都大学阿武山観測所にて開催いたしました。今回のテーマは『阪神・淡路大震災25年 何を伝える、どう伝える』で、新聞・放送人、研究者・学生、ボランティア関係者などのべ58人が参加しました。

2日間にわたる議論では、この25年での到達点といまも変わらない（変えることができていない）課題について、①阪神・淡路大震災に直面し震災報道に奔走した世代（50～60歳代）、②その世代の背中を見つつ正にいま報道現場の中枢にいる世代（30～40歳代）、③「未災者」といえる世代（20代）が、世代を越えて真剣に（深夜まで続いた2次会も含めw）意見を交わしました。

参加した各人、合宿で得たものを普段の「災害報道」や来年1月17日に向けた「震災報道」につなげていこうと気持ちを新たに、阿武山を後にしました。

なお、次回の勉強会は、社会貢献学会との共催でのシンポジウムとなります。

開催日は12月14日で、神戸にて開かれます。災害報道の充実化に向けた議論をおこなう予定です。ご期待ください。



8月17日（土）

▼セッション①：

『阪神・淡路大震災25年 何を伝える、どう伝える』
ファシリテーター 阪本真由美（兵庫県立大大学院准教授）
西口正史（ラジオ関西）

話題提供

- ①安富 信（関西なまずの会会長・神戸学院大学教授）
- ②大牟田智佐子（毎日放送報道局）
- ③瀬川茂子（朝日新聞編集委員）
- ④福本晋悟（毎日放送アナウンサー室）
- ⑤飯尾能久（京都大学防災研究所教授／阿武山観測所所長）
- ⑥林 能成（関西大学社会安全学部教授）



懇親会 (BBQ)



8月18日(日)

▼セッション2：みんなで熱論「災害報道版クロスロード」にチャレンジ！

司会進行 = 近藤誠司 (関西大学准教授)

▼セッション3：合宿勉強会全体を通しての総合討議

ファシリテーター = 大山武人 (NHKアナウンサー)



ご参加いただいた皆さんありがとうございました！
参加できなかった方々も、来年お待ちしております。